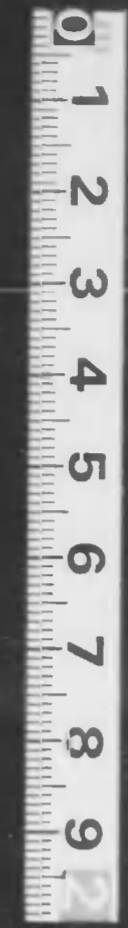


週報寫眞

情報局編輯  
六月十六日 第二千七百七十六號

斷じて  
仇を討たん



戦局はいよいよ苛烈である

ガダルカナルアツツ

敵反攻の鋭鋒いづこを狙ふとも

われに不動の戦略態勢あり

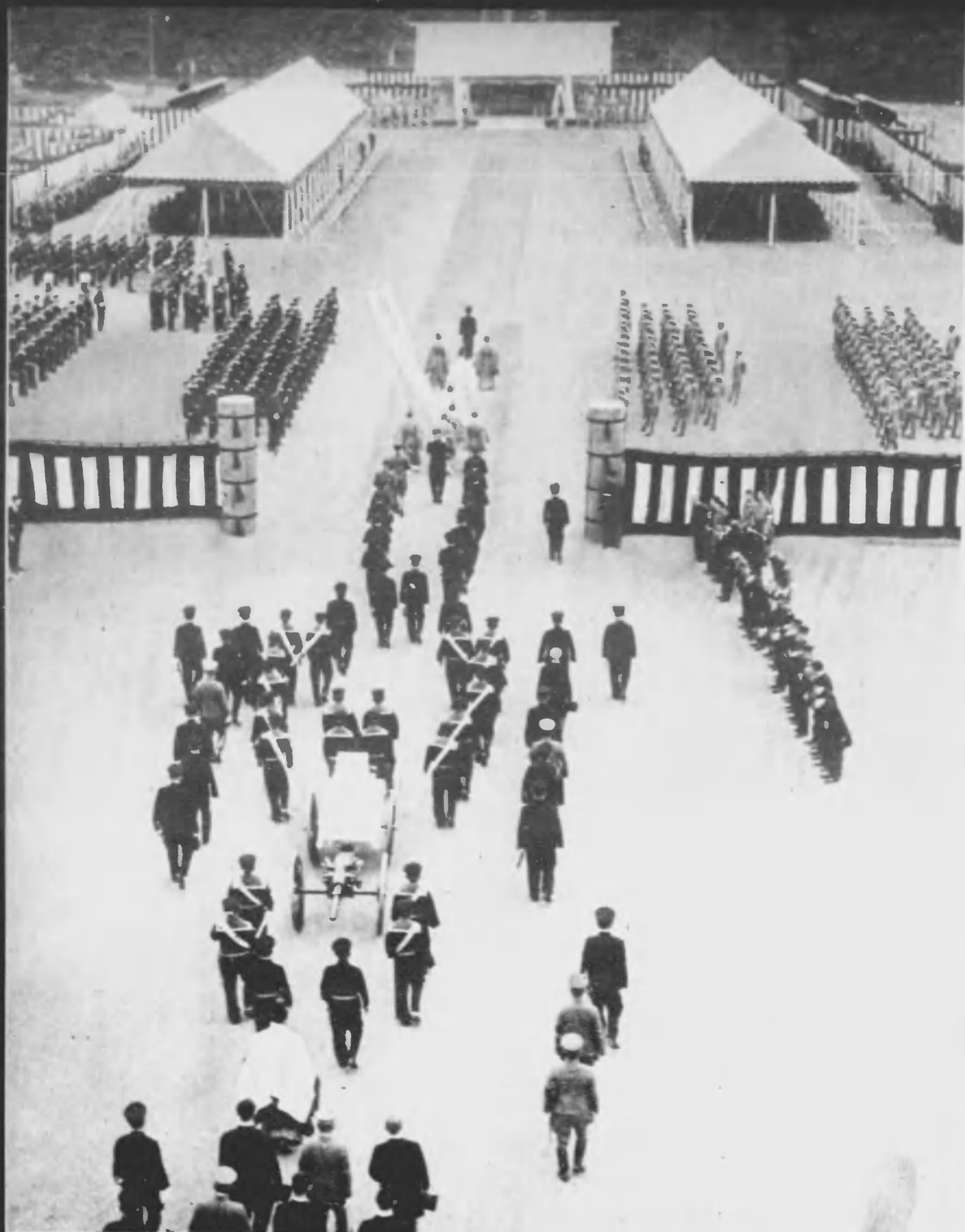
ガダルカナルアツツ

玉碎せる殉國の雄魂に酬いんと

悲憤心魂に徹し

我等一億いま戦線にあり

山本元帥の國葬



「時の立札」は他へ轉載その他に御利用下さい

一億國民が、眼りなき痛憤と深き哀悼の裡に、故山本元帥の國葬は、長くも勅使ならびに御使の御差遣、各宮殿下の御拜禮、御代拜を仰ぎ、六月五日、深緑薫る日比谷葬場において厳かに執り行はれた。

世界を驚倒させ、敵米英を畏怖せしめた元帥の偉勳を偲ぶとき、その御靈を送り奉るわれら一億の感懐は、惻々として迫りくる悲愴の念と、それを乗り越えた敵撃滅の固き復仇の誓ひとともに一人奮勃たるものを覺えた。

されど、盡きぬ名残りのうちに「元帥海軍大將正三位大勳位功一級山本五十六」のしるべは、南海の潮騒に似た松風をよぐところ、多磨の一角に太く高くたてられ、死してなほわれらと共にある元帥の英靈は太平洋の守護神として永へに神鎮まつたのである。

↑ 当然、靈車日比谷の葬場に入る

# アッツ島に玉砕す

昭和十八年五月二十九日  
遂にアッツ島守備隊全將兵は玉砕した

敵大軍アッツ島上陸の報を知るや、われら國民のひたすらに祈り、ひたすらに待ったものは、涙ともにも聞いたあの悲報だつたであらうか。だが、つひに悲報は天を飛んでわれらの耳に達した  
「他に策なきにあらざるも萬一を犠牲し、武人の名を汚すべしにあらざると覺悟し、部下一同も死を共にして俱に死に邁く」と

網島の孤島に敵二万余の大軍を遣へうち、血戦二旬、僅に六千に餘る損害を與へつゝも、部隊また二千數百名中のこゝろの僅かに百數十名、こゝに山崎部隊長以下全將兵はこぞりて死につかんと決意し、二十九日夜暗を期し、敵主力集結を求めてこれに突入、大機雷を下すとともに全員は玉砕し果てたのであつた。これに魁けて、行を俱にし得ざる病み傷つける將士は、悉くわれとわが命を断つて血の戦となし、魂膽敵友と俱に敵陣深く突入したのであつた。その戦闘の凄絶さ、その闘魂の熾烈さ、眞に鬼神もまたさげざるを得なかつたものがあつたことは、察するに難くないのである

進とした一語を最後に、アッツ島の電信所は呼べどつひに應へることなく、永久の沈黙に歸つた。だが、われら國民の耳に今もなほ聞えるではないか、あの勇士等の雄叫びが、——一兵の増援を求めることなく、また「小官僅存する限り各方面何卒御安睡願ひ度」云々の便りを就後に寄せた山崎部隊長を中心とした將兵の渾々たる自信と、鐵石の闘魂をもつて戦ひ抜き、つひに悠久の大義に生きた無比の忠軍精神。これに應へるものは誰だ。この勇士に類くものは誰だ。この勇士の盡忠無比の生命を不滅のものとするのは誰だ  
われら一億、今こそ戦ひの生活に激し、この勇士の屍を越えて、敵米英に總突撃を敢行しよう

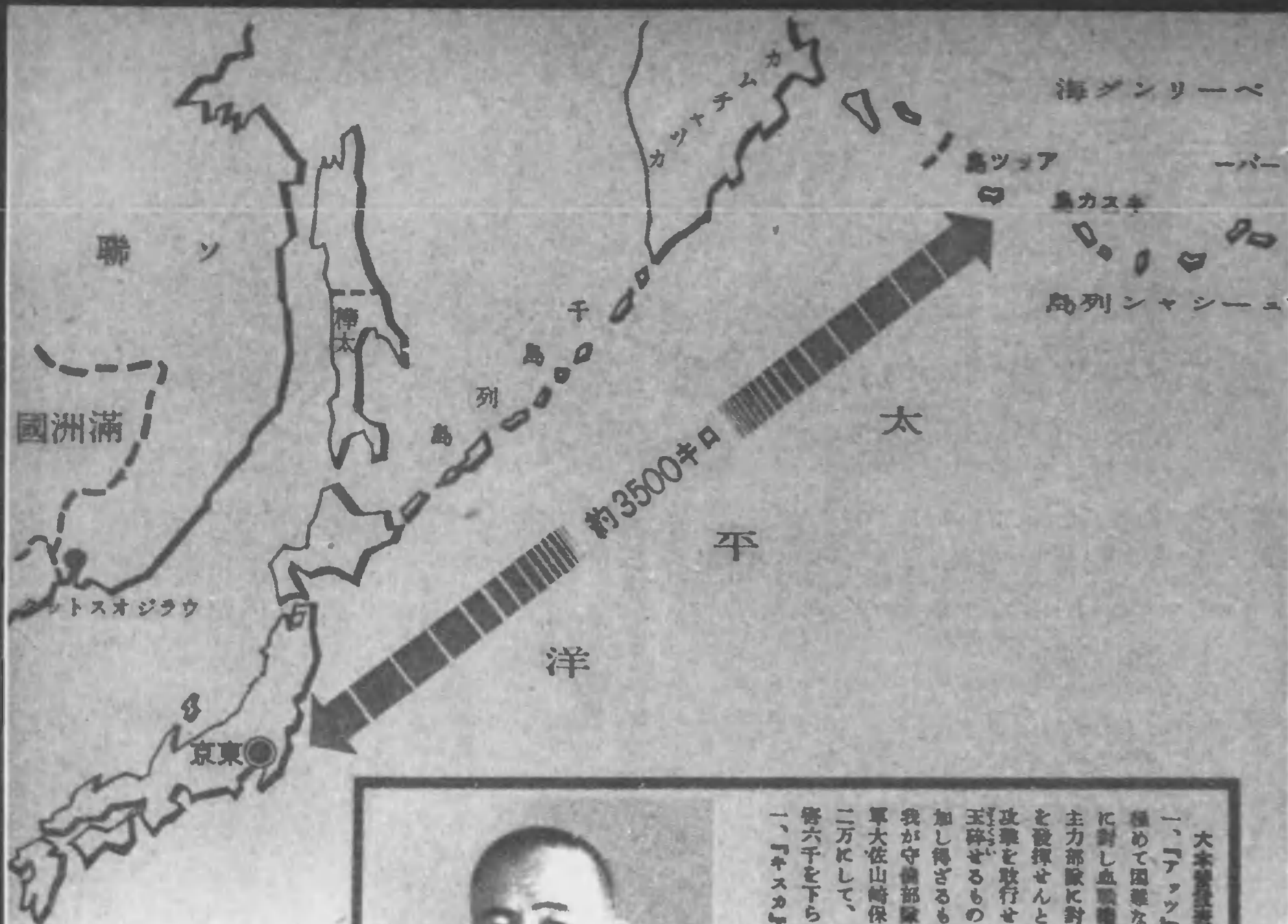
ホルツ灣 ↓

シカゴフ灣 ↓

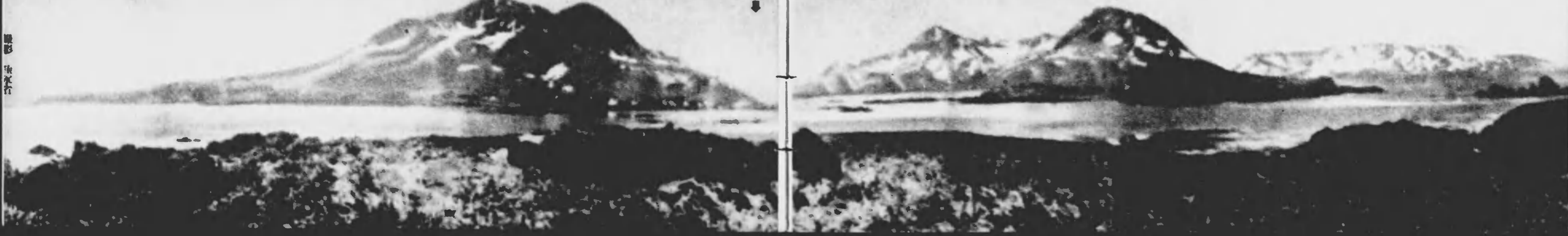
イースト  
ピーク

ミッドル  
ピーク

サラナ灣 ↓



大本營発表(五月三十日十七時)  
一、「アッツ」島守備隊は五月十二日以来、極めて困難なる状況下に寡兵よく優勢なる敵に對し血戰奮闘中の處、五月二十九日夜、敵主力部隊に對し最後の機雷を下し暴軍の陣地を破壊せんと決意し、全力を擧げて壯烈なる攻撃を敢行せり。爾後、通信全く杜絶、全員玉砕せるものと認む。傷病者にして攻撃に参加し得ざるものは之に先だち悉く自決せり。我が守備隊は二千數百にして、部隊長は陸軍大佐山崎保代なり。敵は特殊優秀装備の約二万にして、五月二十八日までを以てたる損害六千を下らず  
一、「カスカキ」島はこれを確保しあり  
山崎保代陸軍大佐





情報局総裁 天羽 英二

# われら一億 英魂に應へん

今や内外の情勢は洵に重大である。皇國の隆替はこの大戦にかゝり、戦争の完遂は現下我々の努力による。政府はこの時局に對處して、決戦體制を一段と強化しつゝある。一億國民は、各々の職域において、自らの責任において、米英降伏のため、名を捨て、身を捨て、一切を捧げて戦力の増強に挺身せねばならぬ。今は徒らに兎や角言つてゐる時ではない。たゞ戦争に勝ち抜くための實行あるのみである。

宣戰の大詔の奉戴實踐に邁進し、御信倚に應へ奉るあるのみである



農家 小池 英さん(五八)

戦争だもん、手が足りねえのはあたりまいだんべ。……うんだども。腹へつてはいさになんねえがんな。おら百姓だから、いくつになつたつて野良へ出つさ、若いもんには戦地で一生懸命やつてもらふべ……

報道のあつた晩、いんちやけて、いんちやけて(口惜しいねむらなかつた。おいら、なんつたつて、さかなとんねつか御奉公になんねえだから。潜水艦なんか出たら潜水鏡ぶつぶしてやつべ……)

四十八社丸(漁船)船長 高野 政吉さん(四六)



↑倉種増産は漁民奮闘で  
やり抜かう 宮城縣古川  
町郊外にて

砂野知商(砲隊軍人)  
矢野市太郎さん(二二)

商報の勤務奉仕です。負傷ですが、中支です。右手が一寸不自由なもので、田植のお手傳ひができません。みんな不仕だなんて氣持はまじません。やらなきやられぬ氣持です。

女子青年學校生徒  
藤本千登美さん(二七)

ほんとに、くやしいわ、まんなくやしいこと、なかなかなしや。千登美さんとその友達も、これ以上はどつても語つてくれなかつた。たゞ、せめて植を分けけるだけ、さうだ、全國民は入たに口惜しいんた。

大日本婦人會員  
香野 花代さん(五二)

お手傳ひさしてもらつて、ま、少しもお役に立てば、ほんたうに喜んでます。おたのしみ出まことだら何んでもさしてもらいます。何んでもあります。田植は輪が、いんちやけて、一生懸命にたれい……









これと敵をやつつけるのだ、直接敵をやつつける兵器をつくれるといふのは何たる光榮だらう、まして前線には負けないぞ



われらへ英魂に應へん  
生産戦にも  
キッと勝マズ

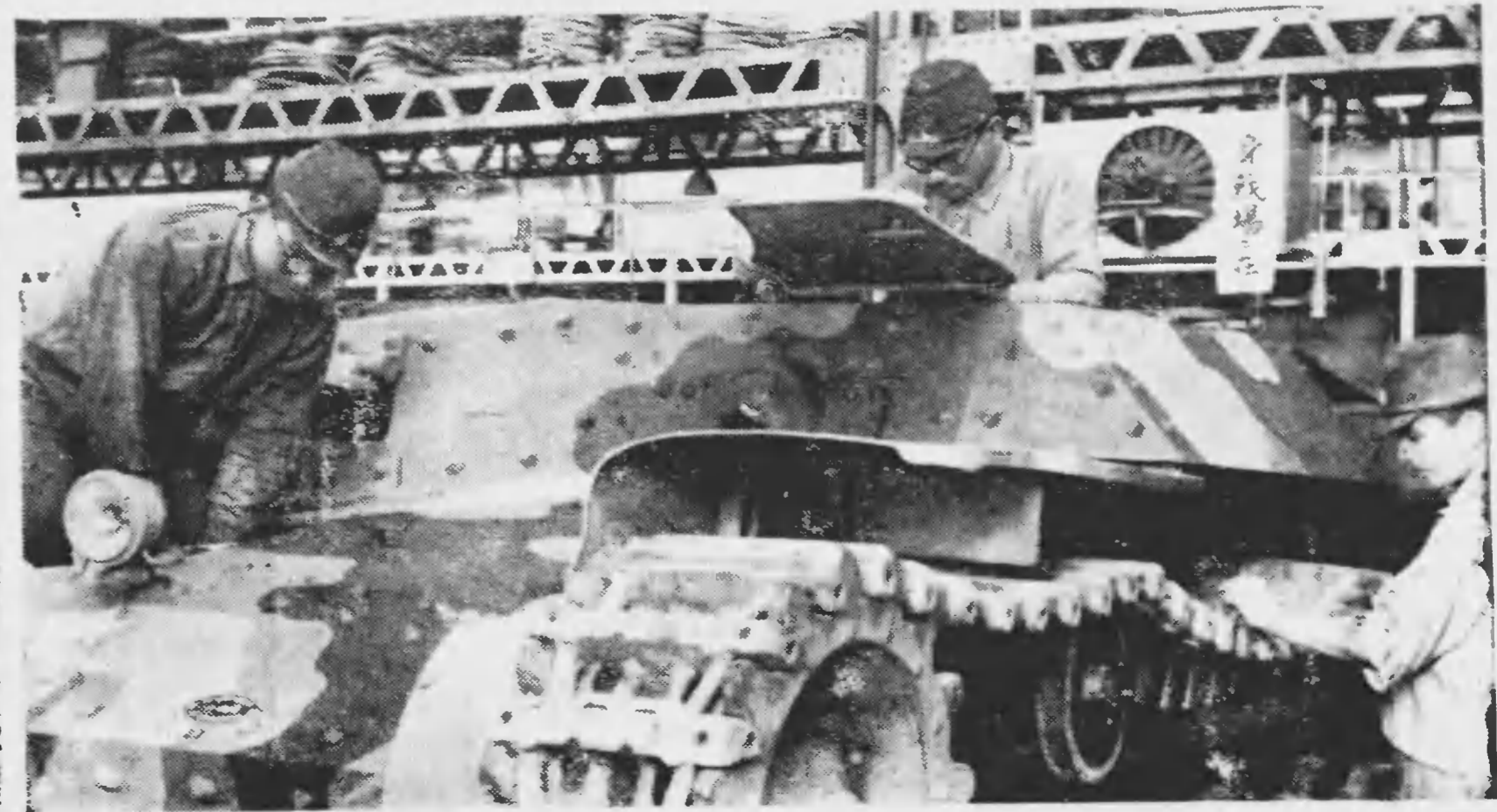
製作所仕上工場  
高林 博登さん(三七)

私も奇襲戦上の米軍戦艦に突進せんとすのどきな英魂的闘精神は各職場に沸き上ぐるまよ。新編皇軍歩兵と生死を共にすの英魂を思ふは、我々と一緒に死せんとすまよ、この英魂を守りまよ。

野口 松一さん(五五)

元帥は「身戦場」存亡を懸せられ、遂に戦死されたが、戦後にある「身戦場」が使ふには少く、惜しいな情動であると思ふが、特にこの「身戦場」を得て、製作所の標品としてきた。たゞ、その精神が一月すべてに浸透してゐると申すことができません。その何となく、進軍、夜襲の暗夜組立をやってみたところ、その部品数千部からある精密度の高いものを、日中以上の組立てたのでした。身兵器工場に在るかぎりには、一言半句の不手なをいふべきではない。これが私共の實踐してゐるところで、あの發表以來、平時より三十分の早出で仕事をしています。

兵器を作る戦場だ、その日／＼が身戦場ニ在リ





んへ應に魂英億一られわ  
**の後銃は蓄貯  
 だ務義**

不可能と思はれることを可能にすることが戦争に勝つ秘訣です。今年の貯蓄目標は二百七十億圓だ。一日に百七十億といふが、この数字は、一俵に大きなお札を百七十枚と置き換えてみると、神武天皇が御即位されたから、毎日百圓づつ、使つたとしても、今まで二千六百三年の間に一億圓は使ひきれません。その一億圓の正に百七十倍です。

一俵、そんな大きなお札の貯蓄ができるならば、この貯蓄は昨年立派に果しました。でも、その昨年よりも、今年はまだ四十億圓の増加です。なかなか、おもしろいことではりません。だが、不可能ではない。これを不可能だと思つたら、戦費をいづては戦争に負けることです。断然貯めればなれません。もはや貯蓄は義務ではなく、義務です。

若し、この義務をわすれ、が貯蓄しなければ、前線の將兵に弓を引く親切者の勇名を遺すだけになりません。第一戦で戦死された山本元帥や、アツツに玉砕した勇士の英魂に應へるために、われわれは断然と貯蓄に邁進させよう。

品川區の各戸に撒散した貯蓄の實踐は、飯田の宅においても實行されてゐる。けいれい、臺所から出た貯蓄額は五十三圓。

區内の娘さん達で結成された女子勤勞挺身隊は十日交代で軍需工場に働き、得た報酬の半額は貯蓄に、半額は國防献金にしている。

増額貯蓄の實行を申し合はれた幹部たちは即日推進員となり、軒並みに増額の運動を開始した。

大阪市阿倍野區昭和町五丁目町會は緊急當會を開き、荒木さんの提案で元帥の遺勳を徳三「五十六銭貯金」を満場一致で可決し、一口五十六銭、口数は自由で早速はじめられ、決意を實行に移した。

アツツの憤激は爆發し、東京品川區の大日本婦人會支部の幹部は、アツツの皇軍勇士に讃け、増額貯蓄の即時實行を申し合せて、五月三十一日、東京日比谷公會堂で、結核女情の決意を固める「新濟決戦婦人大會」を開催した。





# 皆んなで芋を作ろう

茨城県内原中央育苗圃



「東京で一軒百貫は甘藷を作るやうにして貰はなければ……」

と、内原訓練所長加藤寛治氏は意気込んでゐる。食糧増産に農村が必死の時、都會に住む私達が半坪の空地でも剩さず利用して、農村の負擔を軽くすることは義務だ。去年は豊作だつた上に外米があつた。今年はその外米を運んだ船が、戦争になくてならぬ物資を運んでゐるのだ。米が足りないといふ不平を洩らすことは、軍需物資を引おろして外米を送れと求めることだ。私達は一寸の荒蕪地も耕さう。武器を送るために、戦争に勝つために、食糧は自分たちで作らう。

元來、甘藷は苗七分作といはれる位で、苗の良否で收穫が七分まで決まる。今度東京へ送られて來た「飯塚」は、内原が苦心の結晶だけあつて、日當りのよい所なら丸々とした藪が一坪三貫匁ぐらゐる收穫でき、しかも栽培しやすい優秀な苗である。

甘藷は濡つた土地でない限り、大體どんな土地でも栽培出来るが、排水がよく、日當りがよく、風通しがよい、と三拍子揃つた土地ならうつつけである。

畝を作る前 枯草、藁、糞、ゴミ等を腐らせて

世界最大の甘藷苗床から、帝國に送る二百萬本の苗を切り取るのに、内原では日本國民高等學校生徒を總動員して大衆だ



作つた堆肥を坪當り一貫匁と、灰百匁を土とまぜ合せておくと、肥料の代りになるが、これは苗を植付ける一ヶ月前にしておかないと、藁等が地中の窒素を吸つて藪の成長を妨げる。

畝幅はごく排水のよい所で三尺、その他の所では四尺にし、その高さは乾燥した土地なら一尺二寸、濡つた土地で一尺五寸位にして先を溝鑿型にする。二尺幅の畝では増産は望めない。思ひ切つて畝を高く大きくせねばならぬ。

根のない苗を植付けるのだから、晴れた日の朝や日中、風の強い日は避ける。天気相手で、思ふ通りにゆかないが、風のない曇つた日の夕方が一番よい。苗が配給された時は切られてから二、三日経つてゐるから、成るべく早く植付けた方がよい。

植付けるのは、先づ畝の頂きに一寸位の深さの溝をつくり、その中へ苗を水平にし、根方を少し下にむけ、芽先二、三寸だけを土から出したまゝ、細かく砕いた土を軽くかける。苗についてゐる葉は必ず一枚々々地上に出しておく。親葉一枚を失へば諸匁を失ふこととなるから、葉は大切にせねばならぬ。ひどく乾燥した土地に植付けねばならないときは、溝を二寸位に深く掘り、葉だけを出して土をかぶせ、後日活潑してから前のやうに植ゑ直す。

苗と苗との間は、一尺あけて一坪に四、五本植ゑる。植付けた時はしをれてゐても、二、三日すれば葉が起き、ピンと張り活潑する。植付け後、日照が続いたら日光が葉に直射しないやうに芝草、新聞紙等で蔽ひをし、水をやる場合にも葉に水をかけないやうにする。苗が活潑したら、この蔽ひはとる。

植付の時 芽先をごく僅か指先でつまみ、最少限に切つて摘芯するが、一寸も二寸も切つてはならない。摘芯で刺殺されて二、三週間後に芽先の芽が三、四寸に伸びて來るから、再び摘芯する。摘芯しないでよくと芽先二、三本の藁だけが急に五、六尺も伸びて、他の腋芽が發育しなくなり、葉ばかり大きくなる。また腋芽がすつかり出ても、それは不揃ひだから、そのうち大きいのを摘芯して揃へ、平均して藪を發育させれば申分ない。

都市でこれまで蔬菜を作つてゐたやうな畝は、甘藷を作るには土地が肥えずきてゐる位だから、糞尿などの肥料はやらないで、秋の收穫を待つ方がよい。

どんな荒地でも、耕して甘藷を植ゑよう、半坪の空地でもお役に立てる時なのだ。



先芽 寸三、二



苗にかける土は細かく砕いた土で、畝の頂上に出にくい。また、かき土をふんだり、おしついたりしてはならぬ。

畝幅は四尺とし、畝の高さは一尺五寸位にし頂きを溝鑿型にする。この畝の中で溝が大きくなるのだから、思ひきつて大きくした方がよい。



苗の間は一尺位おく。つまり、一坪に長い苗なら四本、短い苗なら五本植ゑられる。この時、葉がしをれてゐても二、三日で生々して來る。

畝の頂きに一寸の溝を掘り、その中へ苗を水平にして、芽先二、三寸だけは上から出して、土を軽くかける。葉は必ず一枚々々上から出す。



・報週の行發局刷印閣内  
編廳官の他のそ報週眞寫

### ていつに關機及普の物行刊局刷印閣内

・店書の寄最ほな すまりをてせら 當に及普し置設を所賣販報官に域地要重にび並縣府各國全は書圖藝  
(局刷印閣内) いさ下用刊御らかすまりをてつ取取もて等店賣發・店開新

郡縣名	普及區域	所在地	電話	振替口座
札幌	北海道	札幌市北一條西一ノ三	(札幌) 六〇〇	二九九九
青森	青森縣	青森市米町二一九	(青森) 三三〇	六二七五
盛岡	岩手縣	盛岡市春町七六	(盛岡) 二〇〇	二八六二
仙臺	宮城縣	仙臺市東三番丁一八	(仙臺) 九〇〇	九四七五
秋田	秋田縣	秋田市大町二ノ一七	(秋田) 二二〇	六〇〇五
山形	山形縣	山形市七日町五二六	(山形) 二二〇	三四二七
福島	福島縣	福島市大町五六	(福島) 二二〇	二四九
水戸	茨城縣	水戸市泉町一〇三三	(水戸) 七〇〇	五四四一
宇都宮	栃木縣	宇都宮市鏡野町三三三	(宇都宮) 二〇〇	七六九三
前橋	群馬縣	前橋市油桶町一	(前橋) 二〇〇	二四四〇
浦和	埼玉縣	浦和市仲町一ノ四三	(浦和) 二二〇	二五七五
千葉	千葉縣	千葉市通町六六	(千葉) 二八〇	七五二四
東京	東京府	東京市神田區錦町一ノ	(東京) 二七〇	一七四三
横濱	神奈川縣	横濱市中區野毛町一ノ	(横濱) 二七〇	七二七
新潟	新潟縣	新潟市西堀前町六番町	(新潟) 二二〇	三二〇
富山	富山縣	富山市總曲輪四五四	(富山) 二二〇	一九九六
金澤	石川縣	金澤市片町五六ノ二	(金澤) 二二〇	七八八
福井	福井縣	福井市佐住枝中町五二	(福井) 二二〇	三三六
甲府	山梨縣	甲府市御町九六	(甲府) 二二〇	三三六
長野	長野縣	長野市大門町三八	(長野) 二二〇	二二〇
岐阜	岐阜縣	岐阜市七軒町二四	(岐阜) 二二〇	二六六一
静岡	静岡縣	静岡市道手町三三	(静岡) 二二〇	二二二七
名古屋	愛知縣	名古屋市西區下長者町	(名古屋) 二二〇	一三五〇
津	三重縣	津市西町一六六	(津) 二二〇	一三〇九
大津	滋賀縣	大津市丸屋町一二	(大津) 二二〇	一六〇三
京都	京都府	京都市中區河原町通	(京都) 二二〇	二〇〇六
大阪	大阪府	大阪市西區土佐堀通	(大阪) 二二〇	五七六一
神戸	兵庫県	神戸市神戶區美町五ノ	(神戸) 二二〇	九四七〇
奈良	奈良縣	奈良市橋本町三六	(奈良) 二二〇	四〇二七
和歌山	和歌山縣	和歌山市新通一ノ二九	(和歌山) 二二〇	六二
鳥取	鳥取縣	鳥取市片原二ノ三六	(鳥取) 二二〇	九〇二
松江	松江縣	松江市磯町六三	(松江) 二二〇	五二四四
岡山	岡山縣	岡山市上石井一八四	(岡山) 二二〇	二六六
広島	広島縣	広島市比治山町一	(広島) 二二〇	五六五
山口	山口縣	山口市市中七	(山口) 二二〇	一八六八
徳島	徳島縣	徳島市中通町一ノ三七	(徳島) 二二〇	二九二
高松	香川縣	高松市西ノ丸町一	(高松) 二二〇	二八七六
松山	愛媛縣	松山市深町三ノ四八	(松山) 二二〇	一六七六
高知	高知縣	高知市升形町九日新館	(高知) 二二〇	五八四一
福岡	福岡縣	福岡市春吉町七橋三五	(福岡) 二二〇	一九八四
佐賀	佐賀縣	佐賀縣教育課内	(佐賀) 二二〇	二八〇八
長崎	長崎縣	長崎市菜場町一ノ一〇	(長崎) 二二〇	一六二九
熊本	熊本縣	熊本市結屋今町七	(熊本) 二二〇	二二一
大分	大分縣	大分縣大分縣町村長	(大分) 二二〇	九三〇
宮崎	宮崎縣	宮崎市別所町一四	(宮崎) 二二〇	七五八
鹿児島	鹿児島縣	鹿児島市市場町一	(鹿児島) 二二〇	五二〇
那覇	沖縄縣	那覇市通堂町一ノ四六	(那覇) 二二〇	五二四
樺太	樺太	樺太市長谷川町九三	(樺太) 二二〇	二八六六
京城	朝鮮	京城府長谷川町九三	(京城) 二二〇	七五九
臺灣	臺灣	臺北市中山路一八	(臺灣) 二二〇	二八六六
上海	上海	上海北四川路八三九號	(上海) 二二〇	二八六六
南洋	南洋	南洋南洋特別市	(南洋) 二二〇	二八六六
南方	南方	南方南洋特別市	(南方) 二二〇	二八六六

**寫眞週報**  
(兼轉載)

昭和十八年六月十六日印刷發行

情報局  
東京市神田區  
本田町  
印刷局

内閣印刷局  
東京市神田區

一部十錢  
送料別  
外埠郵送は  
其の地は送料  
共一十九錢  
其の都道府  
全より郵送中  
受付けず

定價  
全國各地官報  
販賣所

中  
書店・販賣店  
新聞販賣店  
寫眞材料店

所  
本誌を、購読や購場  
て、同封する等、出  
来るだけ有様に御利  
用下さい。

本誌を、購読や購場  
て、同封する等、出  
来るだけ有様に御利  
用下さい。

前線慰問にも  
またお読みになつた  
ら、本誌を前線慰問に  
送りませう。送料は  
内地と同様で、封紙  
等は、同封して、第  
一部一錢です。